

四 街 道 市
第 4 期障害福祉計画

平成 2 7 年 3 月
四 街 道 市

も く じ

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け・性格	2
3 計画の期間	3
第2章 四街道市の障害のある人を取り巻く現状	4
1 統計データなどからみる現状	4
(1) 身体障害のある人の状況	4
(2) 知的障害のある人の状況	5
(3) 精神障害のある人の状況	6
(4) 障害のある児童・生徒の状況	7
(5) 障害福祉サービスの状況	9
(6) 市内の社会資源の状況	10
第3章 計画の基本的な考え方	13
1 基本理念	13
2 重点目標	14
3 施策体系	16
第4章 平成29年度までに達成をめざす目標	18
1 福祉施設の入所者の地域生活への移行	18
2 福祉施設利用者の一般就労への移行	19
3 就労移行支援事業の利用者数	19
4 就労移行支援事業所ごとの就労移行率	19
第5章 障害福祉サービスの必要量の見込み	20
1 訪問系サービス	20
2 日中活動系サービス	23
3 居住系サービス	28
4 相談支援	29
5 その他	30
6 障害児支援	31
第6章 地域生活支援事業の必要量の見込み	32
1 相談支援事業	32
2 意思疎通支援事業	33
3 日常生活用具給付等事業	34
4 移動支援事業	35
5 地域活動支援センター	36
6 その他の地域生活支援事業	37
7 市独自で行っている障害福祉サービス	38
第7章 サービス見込量の総括表	39

第8章 サービス見込量確保のための方策	42
1 訪問系サービス	42
2 日中活動系サービス	42
3 居住系サービス	43
4 障害児支援	43
5 地域生活支援事業	43
第9章 計画の推進	44
1 進捗状況の管理と評価	44
2 関係機関との連携	44
3 県および障害保健福祉圏域との調整・協力	44
資料1 計画策定経過	45
資料2 計画策定体制	47
資料3 用語の解説	50

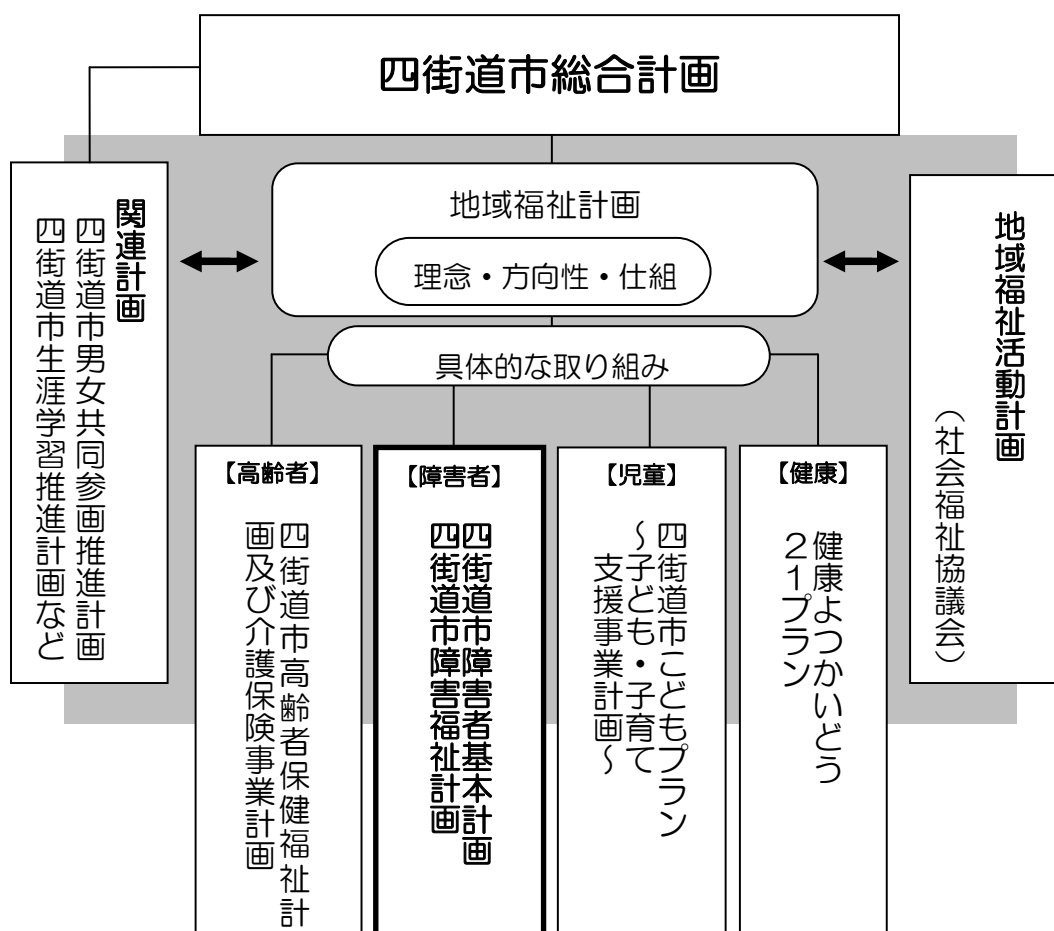
第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

- わが国では、ノーマライゼーションの理念のもと、障害のある人もない人も、地域でともに暮らし、ともに活動できる社会の実現に向け、障害のある人の自立と社会参加を目的に施策が講じられてきました。
- 本市では、平成10年3月に「四街道市障害者基本計画」、平成14年3月にそれを引き継ぐ「第2次四街道市障害者基本計画」を策定し、障害者施策を積極的に推進してきました。また、平成18年4月からは、障害者自立支援法の施行に伴い、平成19年3月に「四街道市障害者基本計画・障害福祉計画」を一体的に策定し、日常生活支援をはじめとするさまざまな障害福祉サービスの充実に向け、取り組みを進めてきました。
- 平成22年12月には、障害者自立支援法や児童福祉法等を一括して改正する法律が成立し、平成25年4月に「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」が施行されました。
- ノーマライゼーションの考え方が浸透するに伴い、それを一歩進めたインクルージョンの考え方が学校、地域、社会づくりの新たな方向性として求められてきており、本市においても障害のある人を地域で分け隔てなく包み込み、ともに生きる社会づくりを目指していく必要があります。
- 平成25年6月に障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とした、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が成立しました(平成28年4月施行)。
この障害者差別解消法の成立により国内法の整備がなされたことから、平成25年12月に障害者権利条約が国会承認され、平成26年1月にわが国は「障害者の権利に関する条約」を批准しました。
- こうした背景を踏まえ、本計画はこれまでの成果を引き継ぎ発展させるとともに、残された課題や新たな課題の解決に向けて、障害者施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として策定するものです。

2 計画の位置付け・性格

- 本計画は、障害者総合支援法第 88 条に基づく「市町村障害福祉計画」に位置付けられます。
- 計画の策定にあたっては、国の基本的な考え方を示す「基本的な指針」や、国、県の上位計画・関連計画に沿って検討を進めました。



- ・「障害者基本計画」は、障害者基本法第11条に基づき、市町村における障害のある人の状況等を踏まえ、障害のある人のための施策に関する基本的な計画です。
- ・「障害福祉計画」は、障害者総合支援法第88条に基づき、国が示す基本指針に即して、障害福祉サービスの提供体制の確保、その他この法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画です。

3 計画の期間

- 本計画の計画期間は平成 27 年度から平成 29 年度の 3 か年です。
- ただし、国の動向や社会情勢が変化した場合、本計画を見直すなど、その変化に柔軟に対応していきます。

計画名	年度													
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
四街道市障害者基本計画	計画期間										次期計画			
四街道市障害福祉計画	第1期計画			第2期計画			第3期計画			第4期計画				
健康よつかいどう21プラン		計画期間												
四街道市子どもプラン ～子ども・子育て支援事業計画～											計画期間			
四街道市高齢者保健福祉計画及び 介護保険事業計画											第6期計画			
四街道市地域福祉計画						計画期間					次期計画			
四街道市総合計画											基本構想			
											前期基本計画			

第2章 四街道市の障害のある人を取り巻く現状

1 統計データなどからみる現状

(1) 身体障害のある人の状況

身体障害者手帳所持者数は、平成25年度は2,880人で平成20年度から約1.2倍となっています。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
所持者数	2,366	2,476	2,571	2,672	2,791	2,880
■等級別						
1級	829	855	882	902	955	964
2級	380	390	403	421	416	426
3級	343	362	385	402	428	446
4級	535	580	606	638	688	719
5級	137	139	140	151	145	150
6級	142	150	155	158	159	175
■年齢別						
18歳未満	61	56	51	57	71	62
18歳以上	2,305	2,420	2,520	2,615	2,720	2,818
■障害別						
視覚障害	179	188	189	203	218	220
聴覚・平衡機能障害	183	195	198	209	219	232
音・言・そしゃく機能障害	24	32	33	41	38	40
肢体不自由	1,313	1,351	1,404	1,456	1,495	1,535
内部障害	667	710	747	763	821	853

各年度末現在

(2) 知的障害のある人の状況

療育手帳所持者数は、平成 25 年度は 506 人で平成 20 年度から約 1.2 倍となっています。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
所持者数	415	435	450	458	484	506
■等級別						
① Aの1 Aの2	189	197	205	209	222	224
Bの1	84	92	92	94	92	94
Bの2	142	146	153	155	170	188
■年齢別						
18歳未満	132	132	125	121	125	133
18歳以上	283	303	325	337	359	373

各年度末現在

(3) 精神障害のある人の状況

精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成 25 年度は 522 人で平成 20 年度から約 1.7 倍となっています。等級別にみると、2 級が半数以上を占め、2 級、3 級はこの 6 年で約 1.8 倍に増加しています。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
所持者数	308	345	404	423	485	522
■ 等級別						
1 級	66	62	59	68	79	89
2 級	166	181	220	228	261	295
3 級	76	102	125	127	145	138

各年度末現在

自立支援医療（精神通院医療）受給者数は、平成 25 年度は 1,058 人で平成 20 年度から約 1.5 倍となっています。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受給者数						
人数	715	764	835	884	943	1,058

各年度末現在

(4) 障害のある児童・生徒の状況

四街道市の特別支援学級の在籍児童・生徒数は、平成26年5月1日現在で、小学校が109人（男子77人、女子32人）、中学校が43人（男子39人、女子4人）となっています。

また、すべての小中学校に特別支援学級が設置されており、平成26年5月1日現在の各学校の設置状況は以下のとおりです。

	学校名	障害種別		
		知	自情	言
小学校	四街道小学校	○	○	○
	旭 小学校	○	○	
	南 小学校	○	○	
	中 央小学校	○	○	
	大 日小学校	○	○	
	八木原小学校	○	○	
	四 和小学校	○	○	
	山 梨小学校	○	○	
	みそら小学校	○	○	
	栗 山小学校	○	○	
	和良比小学校	○	○	
	吉 岡小学校	○	○	

	学校名	障害種別		
		知	自情	言
中学校	四 街 道中学校	○	○	
	千 代 田中学校	○	○	
	旭 中 学校	○	○	
	四街道西中学校	○	○	
	四街道北中学校	○	○	

知 : 知的障害特別支援学級

自情 : 自閉症・情緒障害特別支援学級

言 : 言語障害特別支援学級

(参考) 障害のある人の雇用状況 (千葉県)

千葉労働局の発表によれば、平成 26 年 6 月 1 日現在、障害者雇用率 (以下「法定雇用率」(2.0%) という。) が適用される民間企業 (常用労働者数 50 人以上の企業) 数は、2,082 社 (前年 2,026 社) で、そのうち雇用率達成企業は 989 社 (47.5%)、未達成企業は 1,093 社 (52.5%) です。全体の実雇用率は 1.77% で、前年より 0.06 ポイント上昇しています。

	(1)	(2)	(3)障害者の数					(4)	(5)	(6)
	企業数	法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数	A 重度障害者及び重度知的障害者	B 重度障害者及び重度知的障害者である短時間労働者	C 重度以外の身体障害者、知的障害者及び精神障害者	D 重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者	E (計) A×2+B+C+D×0.5	実雇用率 D÷(2) ×100	法定雇用率達成企業の数	法定雇用率達成企業の割合
一般の民間企業	2,082 企業	485,922.5 人	1,845 人	471 人	3,646 人	1,554 人	8,584.0 人	1.77 %	989 企業	47.5 %
特殊法人等	2 法人	325.0 人	3 人	0 人	1 人	1 人	7.5 人	2.31 %	1 法人	50.0 %

- (注) 1 (2) 欄の「法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数」とは、常用労働者総数から除外率相当数 (身体障害者及び知的障害者が就業することが困難であると認められる職種が相当の割合を占める業種について定められた率を乗じて得た数) を除いた労働者数である。
- 2 (3) A 欄の「重度障害者及び重度知的障害者」については法律上、1 人を 2 人に相当するものとしており、E 欄の計を算出するに当たりダブルカウントを行い、D 欄の「重度以外の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者である短時間労働者」については法律上、1 人を 0.5 人に相当するものとしており、E 欄の計を算出するに当たり、0.5 カウントとしている。
- 3 A、C 欄は 1 週間の所定労働時間が 30 時間以上の労働者であり、B、D 欄は 1 週間の所定労働時間が 20 時間以上 30 時間未満の労働者である。
- 4 F 欄の「うち新規雇用分」は、平成 25 年 6 月 2 日から平成 26 年 6 月 1 日までの 1 年間に新規に雇い入れられた障害者数である。
- 5 () 内は、平成 25 年 6 月 1 日現在の数値である。なお、精神障害者は平成 18 年 4 月 1 日から実雇用率に算定されることとなった。
- 6 特殊法人とは、2.3% の法定雇用率が適用される独立行政法人等。

(5) 障害福祉サービスの状況

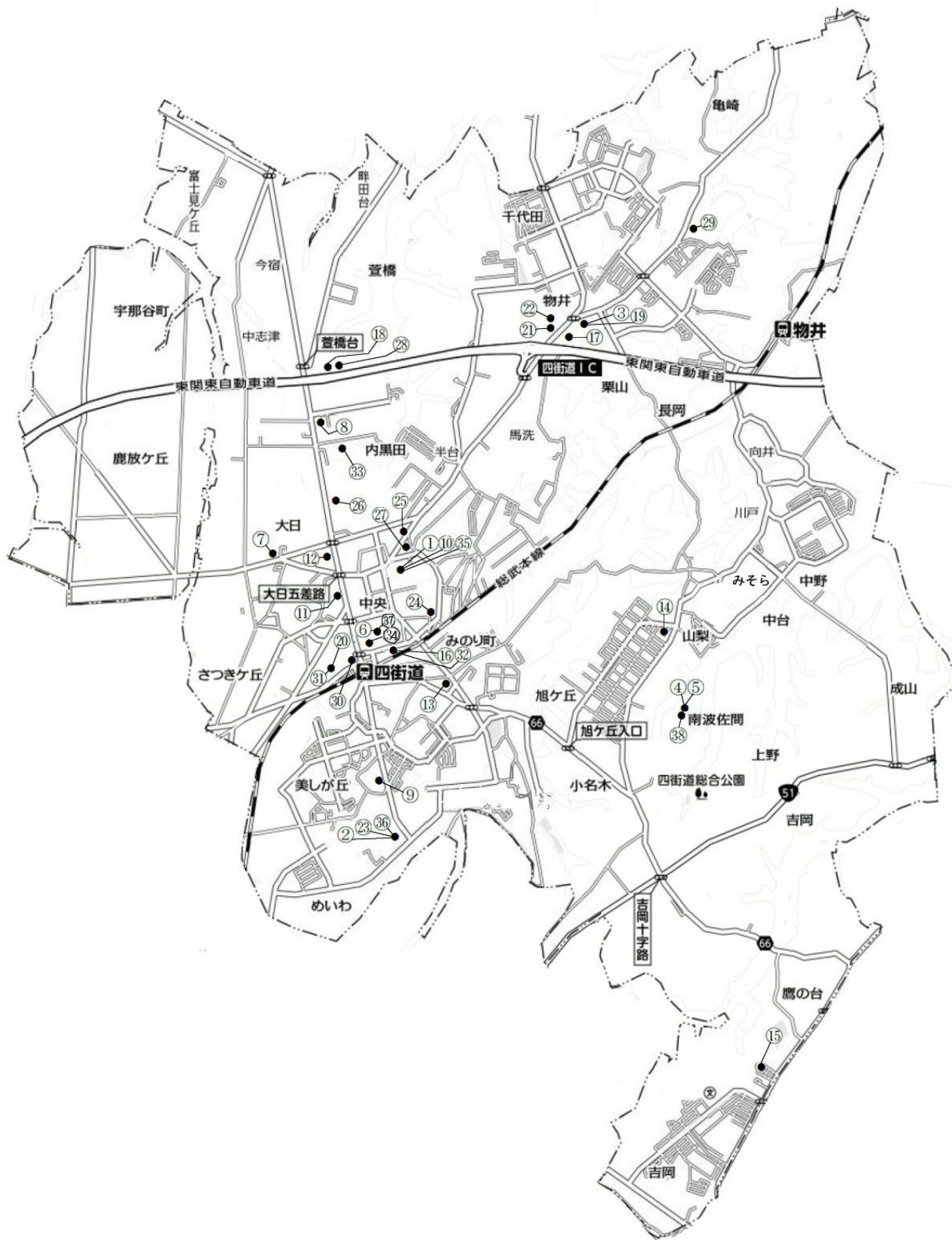
四街道市の障害福祉サービスの提供状況は以下のとおりです。

福祉サービス		24年度	25年度	26年度	単位	
訪問系	居宅介護	73	84	104	利用実人数/月	
		1,497	1,708	1,537	利用延人時/月	
	重度訪問介護	1	1	1	利用実人数/月	
		12	4	7	利用延人時/月	
	同行援護	17	19	26	利用実人数/月	
		338	280	336	利用延人時/月	
	行動援護	17	21	24	利用実人数/月	
		265	271	288	利用延人時/月	
	重度障害者等包括支援	0	0	0	利用実人数/月	
		0	0	0	利用延人時/月	
	日中活動系	生活介護	146	149	159	利用実人数/月
			2,728	2,779	2,887	利用延人日/月
機能訓練		1	2	2	利用実人数/月	
		15	28	32	利用延人日/月	
生活訓練		4	2	3	利用実人数/月	
		59	26	45	利用延人日/月	
就労移行支援		22	31	30	利用実人数/月	
		382	493	466	利用延人日/月	
A型(雇成型)		2	2	2	利用実人数/月	
		41	41	36	利用延人日/月	
B型(非雇成型)		33	48	53	利用実人数/月	
		569	750	866	利用延人日/月	
療養介護		10	11	10	利用実人数/月	
		310	341	310	利用延人日/月	
短期入所		27	31	33	利用実人数/月	
		294	383	353	利用延人日/月	
居住系		・共同生活援助(グループホーム) ・共同生活介護(ケアホーム)※	39	41	38	利用実人数/月
		施設入所支援	63	64	65	利用実人数/月
相談支援	計画相談支援	44	53	45	利用実人数/月	
	地域移行支援・地域定着支援	0	0	1	利用実人数/月	

※ 平成26年度は見込み

※ 共同生活介護(ケアホーム)は平成26年度から共同生活援助(グループホーム)に一元化されました。

(6) 市内の社会資源の状況



NO	事業所名	サービスの種類	所在地
1	四街道市障害者相談支援事業所「ひだまり」	・計画相談 ・障害児相談 ・相談支援	鹿渡無番地 総合福祉センター分館 電話 043-304-2828
2	四街道市障害者相談支援事業所「ほほえみ」	・計画相談 ・障害児相談 ・相談支援	和良比 635-4 南部総合福祉センター 電話 043-420-5388
3	相談支援事業所「らしんばん」	・計画相談 ・障害児相談	栗山 740 電話 043-308-5808
4	障害者支援施設「永幸苑」	・施設入所支援 ・生活介護・短期入所 ・日中一時支援	上野 199 電話 043-432-2851(代)
5	障害者支援施設「ピクシーフォレスト」	・施設入所支援 ・生活介護・短期入所 ・日中一時支援	上野 199 電話 043-432-2851(代)
6	独立行政法人国立病院機構「下志津病院」	・療養介護 ・短期入所	鹿渡 934-5 電話 043-422-2511(代)
7	さわやかヘルパーステーション	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	大日 69-1 HKビル 101 電話 043-310-4181
8	ヤックスヘルパーステーション四街道	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	大日 546-5 電話 043-304-2325
9	特定非営利活動法人「風」	・居宅介護 ・同行援護 ・行動援護 ・重度訪問介護	和良比 740-1 電話 043-432-0825
10	社会福祉法人四街道市社会福祉協議会	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	鹿渡無番地 総合福祉センター分館 電話 043-422-2945
11	たすけあいの会ふきのとう	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	四街道 1521-19 電話 043-304-8801
12	ニチイケアセンター四街道	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	大日 288-17 齊藤ビル 2 階 電話 043-420-6101
13	ジャパンケア四街道	・居宅介護 ・重度訪問介護	和良比 269-31 電話 043-433-6221
14	とも灯介護センター	・居宅介護 ・重度訪問介護	大日 437-72 金子ハイツ 201 電話 043-382-1616
15	すみれ訪問介護事業所	・居宅介護 ・同行援護 ・重度訪問介護	栗山 345-5-106 電話 043-422-2218
16	同行援護事業所「のぞみ」	・同行援護	鹿渡 968-9 電話 043-308-7007

NO	事業所名	サービスの種類	所在地
17	障がい者就労・生活さぽーとピース	・就労移行支援	物井 1798-15 電話 043-424-1004
18	四街道市障害者就労支援センターサンワーク	・就労継続支援 B 型	大日 722-1 電話 043-421-0221
19	青空協同組合	・就労継続支援 B 型	栗山 740 電話 043-290-9878
20	ワークショップ四街道	・就労継続支援 B 型	四街道 1-9-3 電話 043-424-2598
21	みのりほーむ2	・共同生活援助	物井 1792-42 電話 043-312-4331
22	みのりほーむ3	・共同生活援助	物井 1792-64 電話 043-312-7015
23	四街道市児童デイサービスセンターくれよん	・児童発達支援	和良比 635-4 電話 043-433-6301
24	ノビルキッズ四街道校	・放課後等デイサービス	鹿渡 815 電話 043-312-4133
25	そら	・放課後等デイサービス	鹿渡 900-3 電話 043-497-6733
26	ひまわり	・児童発達支援 ・放課後等デイサービス	大日 460-1 電話 043-421-1577
27	くろーばー	・児童発達支援 ・放課後等デイサービス	鹿渡 933-29 電話 043-312-0177
28	四街道市第一福祉作業所	・地域活動支援センター	大日 722-1 電話 043-423-7361
29	四街道市第二福祉作業所	・地域活動支援センター	物井 1252-17 電話 043-421-3439
30	地域活動支援センター「どんぐり工房」	・地域活動支援センター	四街道 1-6-1 電話 043-421-6645
31	視覚障害者総合支援センターちば	・視覚障害者情報提供施設	四街道 1-9-3 電話 043-424-2501
32	千葉県視覚障害者福祉会館	・視覚障害者情報提供施設	鹿渡 968-9 電話 043-421-5199
33	県立千葉盲学校	・特別支援学校	大日 468-1 電話 043-422-0231
34	県立四街道特別支援学校	・特別支援学校	鹿渡 934-45 電話 043-422-2609
35	四街道市総合福祉センター	・福祉センター	鹿渡無番地 電話 043-422-2945
36	四街道市南部総合福祉センター「わろうべの里」	・福祉センター	和良比 635-4 電話 043-433-6201
37	下志津病院相談支援事業所「かけはし」	・計画相談 ・障害児相談	鹿渡 934-5 (平成 27 年 4 月開所予定)
38	グループホーム「きらら」	・共同生活援助	上野 195-1 (平成 27 年 4 月開所予定)

第3章 計画の基本的な考え方

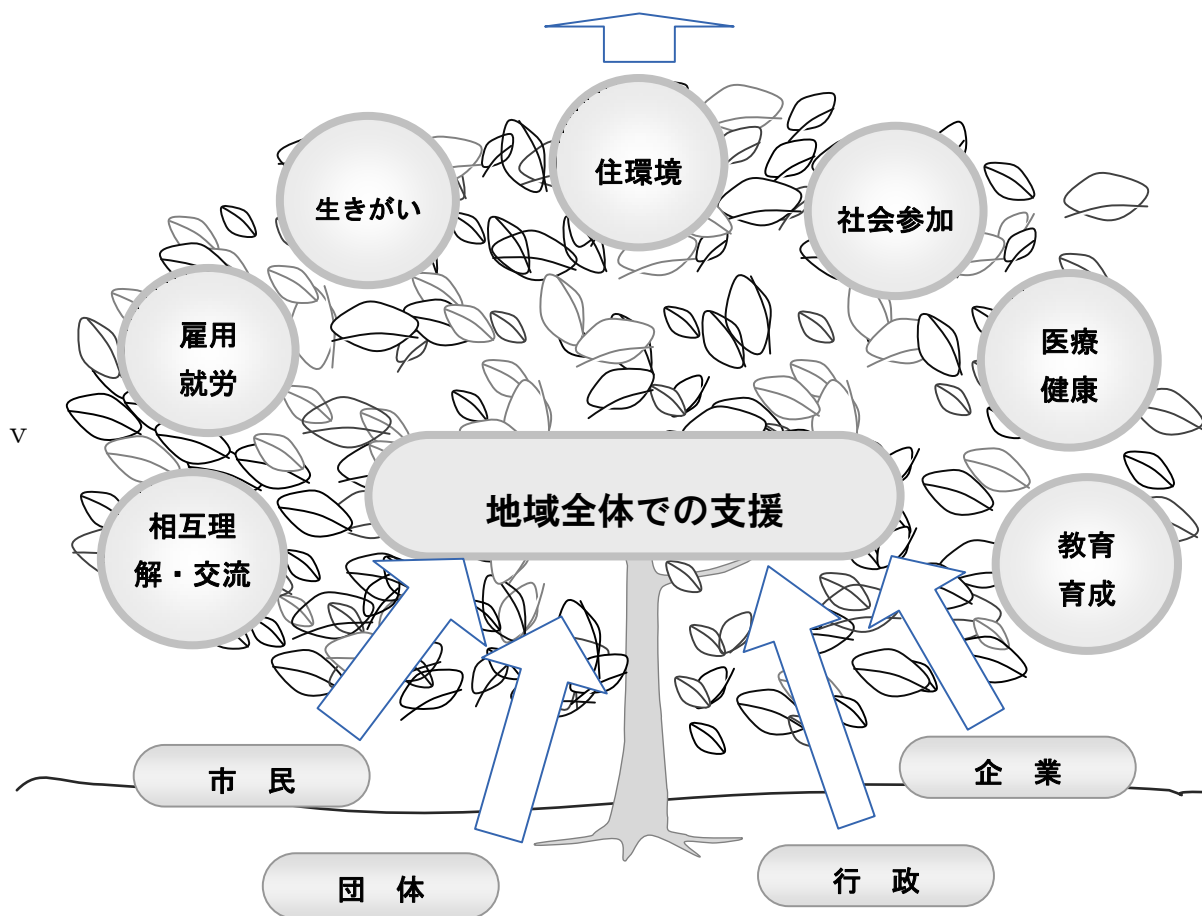
1 基本理念

ノーマライゼーションとバリアフリーの理念を踏まえ、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、すべての市民が互いの人間性を尊重しあい、障害のある人が住み慣れた地域で自立し、個人としての尊厳を持ち、いつまでも生きがいのある暮らしができるまちづくりを目指します。

また、保健・福祉・医療はもとより、教育や都市基盤、交通、環境などあらゆるサービス機関の有機的連携を図り、きめ細かなサービスを提供するとともに、「四街道市地域福祉計画」の理念に基づき、地域社会における支え合いや個々のボランティア意識を醸成し、市民と行政がともに手を携えながら築く豊かな福祉都市を目指します。

自立

障害の種類や程度にかかわらず、誰もが地域社会から、必要とする支援を受けながら、自己選択と自己決定にもとづいて、自分らしく生きることができる



2 重点目標

近年の障害のある人をめぐる状況を踏まえ、次の4項目を重点目標として設定し、障害者福祉の向上に向けて重点的に取り組みます。

①相談支援の充実

障害福祉サービスを利用する時は、指定特定相談支援事業者が作成するサービス等利用計画が必要となります（計画相談支援）。また、障害のある子どもが、障害児通所支援を利用する場合、障害児相談支援事業者が障害児支援利用計画を作成します。

そして、一般的な相談支援は、市窓口のほか、市内2か所の法人に相談支援事業を委託しており、個別に障害のある人や家族などからの相談に対応しております。その相談件数は年々増加傾向にあり、相談内容も複雑化していることから、支援体制の充実に取り組みます。

- 身体、知的、精神それぞれの障害特性を考慮した支援を行います。
- 相談支援事業所と自立支援協議会をより連携させ、地域の相談支援ネットワークを強化します。
- 障害のある人が、福祉サービスを円滑に利用できるよう、相談支援専門員の増員、指定特定相談支援事業所、指定障害児相談支援事業所を増やすなど相談支援事業所を整備します。

②障害のある人の就労支援

障害のある人の就労支援にはさまざまな障害者雇用に係る支援機関との連携が不可欠であり、自立支援協議会でも「就労部会」を設置し、就労に関する支援ネットワーク体制構築を進めています。

- 障害のある人が、一般就労するための支援ネットワークを構築し、就労につなげ、長期就労できるよう支援します。
- 国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（平成二十四年法律第五十号）に基づいて、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を作成し、官公需に係る障害者就労施設等の受注機会の拡大を図ります。

③障害のある子どもへの支援

障害のある子どもへの支援については、児童福祉法を基本とした身近な地域での支援充実を目指し、幼児期から成人に至るまで、一貫した相談支援体制の整備を図ります。

- 幼児期から子どもの発達段階に応じて関係機関が適切な支援を行えるような体制の整備を図ります。
- 指定障害児相談支援事業所を整備し、障害のある子ども及びその家族の支援の充実を図ります。

④ともに生きる地域生活の実現

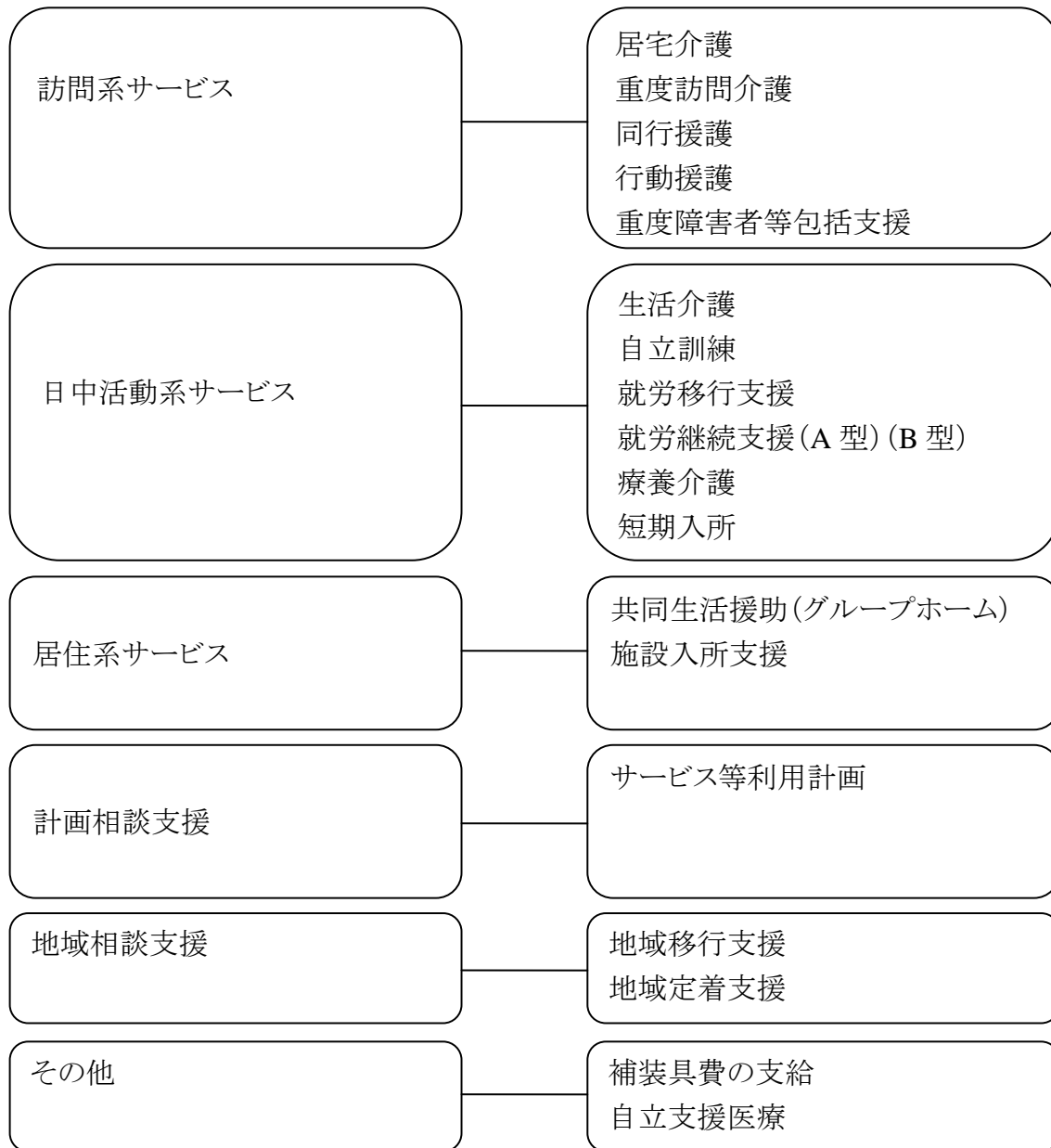
障害のある人が住み慣れた地域で自立した日常生活や社会生活を営むには、地域の理解と協力が不可欠です。市では、市民向けの障害に対する理解を深めるための啓発を行い、障害のある人の社会参加、生活支援の体制を整備します。

○障害のある人が、地域で生活していくための支援体制を整備します。

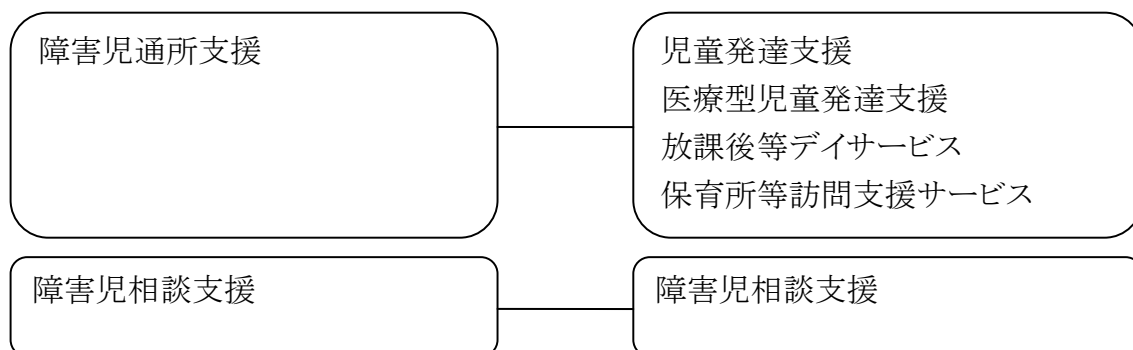
○障害のある人の権利を擁護し、差別されることのない体制を整備します。

3 施策体系

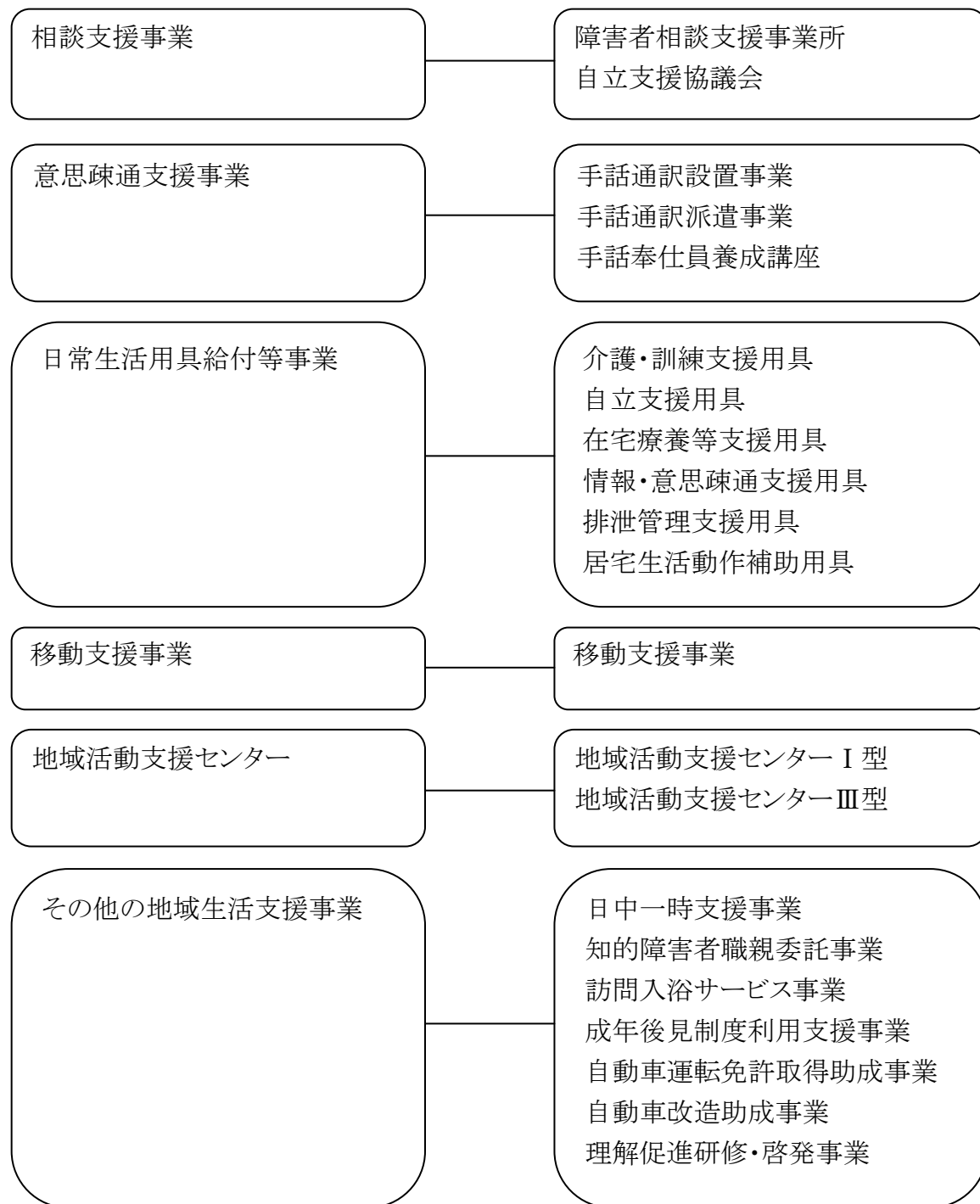
【1】障害福祉サービスおよび相談支援



【2】障害児を対象としたサービス



【3】地域生活支援事業



第4章 平成29年度までに達成をめざす目標

第4期障害福祉計画では、第3期から引き続き、障害のある人の地域生活移行や就労支援に関する目標について、平成29年度を最終目標年度として設定することとされています。

1 福祉施設の入所者の地域生活への移行

【国の考え方】

- 平成29年度末における地域生活に移行する者の数値目標を設定する。当該数値目標の設定にあたっては、平成25年度末の施設入所者数の12%以上が地域生活へ移行することを基本として、これまでの実績及び地域の実情を踏まえて設定する。
- 平成29年度末時点における施設入所者数を平成25年度末時点の施設入所者から、4%以上削減することを基本として、これまでの実績及び地域の実情を踏まえて設定する。

	数値	考え方
平成25年度末時点の入所者数(A)	64人	○平成25年度末の施設入所者数
目標年度入所者数(B)	61人	○平成29年度末時点の利用人員
【目標値】 削減見込(A-B)	3人 4%	○差引減少見込み数
【目標値】 地域生活移行者数	7人	○施設入所からグループホームなどへ移行した者の数

2 福祉施設利用者の一般就労への移行

【国の考え方】

- ・福祉施設利用者のうち、就労移行支援事業等（生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援を行う事業をいう）を通じて、平成 29 年度中に一般就労に移行する者の数値目標を設定する。
- ・目標の設定にあたっては、平成 24 年度実績の 2 倍以上とすることを基本として、これまでの実績及び地域の実情を踏まえて設定する。

	数値	考え方
平成 24 年度の一般就労移行者数	5 人	○平成 24 年度において福祉施設を通じて、一般就労した者の数
【目標値】 目標年度の一般就労移行者数	10 人 2(倍)	○平成 29 年度において福祉施設を通じて、一般就労する者の数

3 就労移行支援事業の利用者数

【国の考え方】

- ・平成 29 年度末における就労移行支援事業利用者を、平成 25 年度末から 6 割以上増加することを基本として、これまでの実績及び地域の実情を踏まえて設定する。

	数値	考え方
平成 25 年度末の就労移行支援事業利用者数	31 人	○平成 25 年度末において就労移行支援事業を利用する者の数
平成 29 年度の就労移行支援事業利用者数	50 人 60(%)	○平成 29 年度末において就労移行支援事業を利用する者の数

4 就労移行支援事業所ごとの就労移行率

【国の考え方】

- ・平成 29 年度末において、就労移行支援事業所のうち、就労移行率が 3 割以上の事業所を全体の 5 割以上とすることを目指すことを基本として、これまでの実績及び地域の実情を踏まえて設定する。

	数値	考え方
平成 25 年度末の就労移行支援事業所 利用者数	31 人	○平成 25 年度末において就労移行支援事業 所を利用した者の数
平成 25 年度末の就労者数	3 人	○平成 25 年度末において就労移行支援事業 所を通じて就労した者の数
平成 29 年度末の就労移行支援事業所 利用者数	50 人	○平成 29 年度末において就労移行支援事業 所を利用する者の数
【目標値】 平成 29 年度末の就労者数	15 人 30(%)	○平成 29 年度末において就労移行支援事業 所を通じて就労する者の数

第5章 障害福祉サービスの必要量の見込み

1 訪問系サービス

(1) 居宅介護

居宅において入浴、排せつ、食事などの介護並びに調理、洗濯、掃除などの家事及び生活に関する相談その他の生活全般にわたる援助を行います。

(2) 重度訪問介護

重度の肢体不自由、知的障害、精神障害があり常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います。

(3) 同行援護

視覚障害により、移動に著しい困難を有する障害のある人などに対し、移動時及びそれに伴う外出先において必要な視覚的情報の支援（代筆・代読を含む）、外出先において必要な移動の援護、排せつ・食事などの介護その他外出する際に必要となる援助を行います。

(4) 行動援護

自己判断能力が制限されている人（重度の知的障害のある人・子どもまたは重度の精神障害のある人であって、危険回避ができない、自傷、異食、徘徊などの行動障害に対する援護を必要とする人）が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行います。

(5) 重度障害者等包括支援

介護の必要性がとて高い人に対し、居宅介護など複数のサービスを包括的に行います。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
居宅介護	利用実人数／月	73	84	104
	時間分／月	1,497	1,708	1,537
重度訪問介護	利用実人数／月	1	1	1
	時間分／月	12	4	7
同行援護	利用実人数／月	17	19	26
	時間分／月	338	280	336
行動援護	利用実人数／月	17	21	24
	時間分／月	265	271	288
重度障害者等包括支援	利用実人数／月	0	0	0
	時間分／月	0	0	0
合計	利用実人数／月	108	125	155
	時間分／月	2,112	2,263	2,168

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
居宅介護	利用実人数／月	117	130	143
	時間分／月	1,722	1,907	2,092
重度訪問介護	利用実人数／月	1	1	1
	時間分／月	4	4	4
同行援護	利用実人数／月	30	34	38
	時間分／月	383	430	477
行動援護	利用実人数／月	27	30	33
	時間分／月	299	310	321
重度障害者等包括支援	利用実人数／月	0	0	0
	時間分／月	0	0	0
合 計	利用実人数／月	175	195	215
	時間分／月	2,408	2,651	2,894

※各年度1か月あたり

2 日中活動系サービス

(1) 生活介護

常に介護を必要とする人に、昼間、障害者支援施設などにおいて、入浴、排せつ、食事などの介護を行うとともに、創作的活動または生産活動の機会を提供します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
生活介護	利用実人数／月	146	149	159
	利用延人日／月	2,728	2,779	2,887

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
生活介護	利用実人数／月	165	171	177
	利用延人日／月	2,964	3,041	3,118

※各年度1か月あたり

(2) 自立訓練

自立した日常生活または社会生活ができるよう、一定期間、身体機能または生活能力の向上のために必要な訓練を行います。

自立訓練のうち機能訓練は、身体障害のある人を対象とし、理学療法や作業療法などの身体的リハビリテーションや歩行訓練、コミュニケーション・家事などの訓練を実施することと併せ、日常生活上の相談支援、関係サービス機関との連絡・調整を通じて、地域生活への移行を目指します。

自立訓練のうち生活訓練は、知的障害のある人・精神障害のある人を対象とし、食事や家事などの日常生活能力向上のための支援を実施することと併せ、日常生活上の相談支援、関係サービス機関との連絡・調整を通じて、地域生活への移行を目指します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
機能訓練	利用実人数／月	1	2	2
	利用延人日／月	15	28	32
生活訓練	利用実人数／月	4	2	3
	利用延人日／月	59	26	45

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
機能訓練	利用実人数／月	3	4	5
	利用延人日／月	38	44	50
生活訓練	利用実人数／月	3	3	3
	利用延人日／月	45	45	45

※各年度1か月あたり

(3) 就労移行支援

一般就労を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探しなどを通じ、適性に合った職場への就労などが見込まれる人に対し、事業所内における作業訓練や職場実習、就職後の職場定着支援などを実施します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
就労移行支援	利用実人数／月	22	31	30
	利用延人日／月	382	493	466

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
就労移行支援	利用実人数／月	37	44	50
	利用延人日／月	740	880	1,000

※各年度1か月あたり

(4) 就労継続支援

一般企業などでの就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。利用者が事業所と雇用契約を結ぶA型（雇成型）と、雇用契約を結ばないB型（非雇成型）があります。

A型（雇成型）は、特別支援学校卒業者で企業等の雇用に結びつかなかった人や離職した人などを対象に、雇用契約に基づき働きながら、一般就労もめざす事業です。なお、この事業の特徴として、定員の2割までの範囲で、定員とは別に、障害のある人以外の人を雇用することができます。

B型（非雇成型）は、年齢や体力面で一般就労が難しい人などを対象に、雇用契約は結ばずに、就労機会を提供する事業です。なお、工賃の目標額を事業所毎に定め、その引き上げを図ることとしています。

市内には、市直営の四街道市障害者就労支援センターサンワーク、民間事業所である、青空協同組合、ワークショップ四街道が障害のある人の就労支援を行っています。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
A型(雇成型)	利用実人数/月	2	2	2
	利用延人日/月	41	41	36
B型(非雇成型)	利用実人数/月	33	48	53
	利用延人日/月	569	750	866

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
A型(雇成型)	利用実人数/月	2	3	4
	利用延人日/月	40	60	80
B型(非雇成型)	利用実人数/月	61	69	77
	利用延人日/月	985	1,104	1,223

※各年度1か月あたり

(5) 療養介護

医療を必要とし、常に介護を必要とする人に、昼間、病院などにおいて、機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理下における介護及び日常生活の世話をを行います。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
療養介護	利用実人数／月	10	11	10
	利用延人日／月	310	341	310

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
療養介護	利用実人数／月	10	11	11
	利用延人日／月	310	341	341

※各年度1か月あたり

(6) 短期入所

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め、施設で入浴、排せつ、食事の介護などを行います。障害者支援施設等において実施する「福祉型」と、病院、診療所等において実施する「医療型」があります。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
短期入所	利用実人数／月	27	31	33
	利用延人日／月	294	383	353

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
短期入所 (福祉型)	利用実人数／月	34	36	39
	利用延人日／月	359	374	392
短期入所 (医療型)	利用実人数／月	2	3	3
	利用延人日／月	12	15	15
短期入所 合計	利用実人数／月	36	39	42
	利用延人日／月	371	389	407

※各年度1か月あたり

3 居住系サービス

(1) 共同生活援助（グループホーム）

障害のある人に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居において、相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助を行います。

平成 26 年度より共同生活援助（グループホーム）と共同生活介護（ケアホーム）は一元化され、共同生活援助（グループホーム）となりました。

■サービス実績（26 年度は見込み）

		24 年度	25 年度	26 年度
・共同生活援助 （グループホーム） ・共同生活介護 （ケアホーム）	利用実人数／月	39	41	38

※各年度 1 か月あたり

■サービス見込み量

		27 年度	28 年度	29 年度
・共同生活援助 （グループホーム）	利用実人数／月	43	46	48

※各年度 1 か月あたり

(3) 施設入所支援

施設入所支援は従前の入所施設を、日中活動部分と施設入所支援に分けたもので、夜間に入所する障害のある人に対して、入浴、排せつ、食事の世話などを行います。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
施設入所支援	利用実人数／月	63	64	65

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
施設入所支援	利用実人数／月	65	63	61

※各年度1か月あたり

4 相談支援

障害福祉サービスを利用する人、障害福祉サービスを利用する子どもは支給決定前に指定特定相談支援事業者がサービス等利用計画を作成することになります。また、市はこれを勘案して支給決定を行います。

また、障害者支援施設又は精神科病院に入所・入院している障害のある人が地域で生活するための支援をします（指定地域相談支援）。

■サービス実績（計画相談支援）（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
障害福祉サービス	利用実人数／月	44	53	45

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量（計画相談支援）

		27年度	28年度	29年度
障害福祉サービス	利用実人数／月	46	46	46

※各年度1か月あたり

■サービス実績（地域移行支援・地域定着支援）（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
相談支援	利用実人数／月	0	0	1

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量（地域移行支援・地域定着支援）

		27年度	28年度	29年度
相談支援	利用実人数／月	1	1	1

※各年度1か月あたり

5 その他

(1) 補装具費の支給

身体に障害のある人が、日常生活を送る上で必要な補装具（義肢、装具、車いすなど）を支給します。基本は1割負担ですが、所得に応じて一定の負担上限が設定されています。

(2) 自立支援医療

自立支援医療は、障害のある人が心身の障害の状況からみて、自立支援医療を受ける必要があり、かつ、世帯の所得の状況、治療状況を勘案して支給認定されます。基本は1割負担ですが、低所得世帯の人だけでなく、一定の負担能力があっても、継続的に相当額の医療費負担が生じる人にも、ひと月当たりの負担に上限額を設定するなどの負担軽減策が講じられています。

6 障害児支援

障害のある子どもが、障害児通所支援を利用する場合、障害児相談支援事業者が障害児支援利用計画を作成します。

障害児通所支援は、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与又は集団生活への適応のための訓練を提供する児童発達支援事業や、授業終了後又は学校の休業日に生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流の促進を行う放課後等デイサービス、障害児施設で指導経験のある児童指導員や保育士が、保育所などを訪問し、障害のある子どもや保育所スタッフに専門的な支援を行う保育所等訪問支援サービスなどを提供します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
障害児相談支援	利用実人数／月	9	31	27
児童発達支援	利用実人数／月	52	59	59
	延人日／月	250	236	236
医療型児童発達支援	利用実人数／月	0	2	2
	延人日／月	0	12	5
放課後等デイサービス	利用実人数／月	52	63	88
	延人日／月	472	570	596
保育所等訪問支援サービス	利用実人数／月	0	0	1
	延人日／月	0	0	2

※各年度1か月あたり

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
障害児相談支援	利用実人数／月	28	29	30
児童発達支援	利用実人数／月	62	65	68
	延人日／月	236	236	236
医療型児童発達支援	利用実人数／月	3	3	3
	延人日／月	5	5	5
放課後等デイサービス	利用実人数／月	92	106	120
	延人日／月	649	702	755
保育所等訪問支援サービス	延人日／月	1	1	1
	延人日／月	2	2	2

※各年度1か月あたり

第6章 地域生活支援事業の必要量の見込み

1 相談支援事業

(1) 相談支援事業

障害のある人などの福祉に関する相談、必要な情報提供・助言のほか、虐待防止や権利擁護のために必要な援助を行います。また、自立支援協議会の運営を行い、地域の関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善などを推進します。

今後、地域の相談支援の拠点となる基幹相談支援センターの設置についても検討していきます。

①障害者相談支援事業所

障害のある人や家族などからの相談に、常勤の相談支援専門員がそれぞれ個別に対応し、必要な情報の提供や助言を行う総合的な相談支援事業所を、市内を南北に分けた日常生活圏域に1か所ずつ設置しています。

それぞれ業務委託し、市の北部には「四街道市障害者相談支援事業所ひだまり」を、南部には「四街道市障害者相談支援事業所ほほえみ」を設置しています。

■サービス実績

		24年度	25年度	26年度
障害者相談支援事業所	箇所数	2	2	2

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
障害者相談支援事業所	箇所数	2	2	2

②自立支援協議会の運営

中立・公正な立場で障害者相談支援事業所の評価ができる体制として、平成19年度に自立支援協議会を設立し、平成21年度からは専門部会を設置しました。

今後は、障害者相談支援事業所とともに地域の関係機関などによる相談支援ネットワークとして地域での重層的な支え合いを目指します。

(2) 市町村相談支援機能強化事業

相談支援事業が適正かつ円滑に実施されるよう、一般的な相談支援事業に加え、特に必要と認められる能力を有する専門的職員（社会福祉士、精神保健福祉士等）を配置しています。

2 意思疎通支援事業

手話通訳者を派遣する事業、手話通訳者を設置する事業など、意思疎通を図ることに支障がある障害のある人などとその他の者の意思疎通を仲介します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
手話通訳者設置事業	設置実人数	1	1	1
手話通訳者派遣事業	利用実人数	16	17	17

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
手話通訳者設置事業	設置実人数	1	1	1
手話通訳者派遣事業	利用実人数	18	18	19

3 日常生活用具給付等事業

日常生活上の便宜を図るため、重度の障害のある人に対し、①介護・訓練支援用具、②自立生活支援用具、③在宅療養等支援用具、④情報・意思疎通支援用具、⑤排泄管理支援用具、⑥居住生活動作補助用具(住宅改修費)、を給付又は貸与します。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
介護訓練・支援用具	件	5	3	2
自立生活支援用具	件	23	35	5
在宅療養等支援用具	件	13	6	6
情報・意思疎通支援用具	件	16	36	39
排泄管理支援用具	件	1,334	1,399	1,475
居宅生活動作補助道具	件	7	7	1

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
介護訓練・支援用具	件	3	3	3
自立生活支援用具	件	21	22	23
在宅療養等支援用具	件	8	8	8
情報・意思疎通支援用具	件	45	51	57
排泄管理支援用具	件	1,542	1,609	1,676
居宅生活動作補助道具	件	5	5	5

4 移動支援事業

屋外での移動が困難な人について、外出のための支援を行い、地域における自立生活及び社会参加を促します。個別支援型とグループ支援型があります。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
移動支援事業	利用実人数	86	105	105
	利用延時間数	8,572	8,803	5,083

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
移動支援事業	利用実人数	110	112	115
	利用延時間数	7,486	7,500	7,550

5 地域活動支援センター

創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流促進などの機会の提供などを行う地域活動支援センターを設置しています。

地域活動支援センターは職員配置、事業内容、利用者数などによって、Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型があります。

四街道市福祉作業所（第一福祉作業所、第二福祉作業所）は、平成24年3月から地域活動支援センターⅢ型の事業を行う施設として、主に知的障害のある人の創作活動、生産活動などを行っています。

■サービス実績（26年度は見込み）

		24年度	25年度	26年度
地域活動支援センターⅢ型(本市)	箇所数	3	3	3
	利用実人数	63	74	64
地域活動支援センターⅢ型(他市)	箇所数	5	4	1
	利用実人数	6	6	3
地域活動支援センターⅠ型(他市)	箇所数	1	1	1
	プログラム参加人数	45	19	14
	相談業務人数	1,477	1,238	654

■サービス見込み量

		27年度	28年度	29年度
地域活動支援センターⅢ型(本市)	箇所数	3	3	3
	利用実人数	67	69	71
地域活動支援センターⅢ型(他市)	箇所数	3	3	3
	利用実人数	5	6	7
地域活動支援センターⅠ型(他市)	箇所数	1	1	1
	プログラム参加人数	26	27	28
	相談業務人数	650	660	670

6 その他の地域生活支援事業

(1) 日中一時支援事業

日中、一時的に介護者が介護にあたれない場合などに、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設などにおいて、活動の場や見守り、介護などを提供します。

(2) 知的障害者職親委託制度

知的障害のある人を一定期間、知的障害のある人の更生援護に熱意を有する事業経営者などに預け、生活指導及び技能習得訓練などを行います。

(3) 訪問入浴サービス事業

寝たきりの身体障害のある人に、訪問により、特別浴槽を利用した安全かつ快適な入浴サービスを提供します。

(4) 成年後見制度利用支援事業

障害福祉サービスを利用または利用しようとする身寄りのない重度の知的障害のある人または精神障害のある人が成年後見制度を利用する場合、申し立てに要する経費（登記手数料、鑑定費用など）及び後見人などの報酬の全部又は一部を助成します。

(5) 自動車運転免許取得助成事業

自動車免許の取得により就労が見込まれるなど社会活動への参加に効果があると認められる身体障害のある人を対象に、免許の取得に要する費用の一部を助成します。

(6) 自動車改造助成事業

重度の身体障害のある人が自ら運転するために自動車を改造する場合、その費用の一部を助成します。

(7) 理解促進研修・啓発事業

障害のある人等への理解を深めるため、研修・啓発を通じて地域住民への働きかけを強化することにより、共生社会の実現を図ります。

(8) 手話奉仕員養成研修事業

地域で活動する手話奉仕員の養成のため、養成研修を実施し、一人でも多くの手話奉仕員の育成を図ります。

7 市独自で行っている障害福祉サービス

(1) 障害者通所施設交通費助成

障害者通所施設に通う障害のある人（子ども）及び単独での通所が困難な方に付き添って通所する介護者等に対し、一定の要件を満たした場合、その交通費の一部を助成します。

(2) 障害者グループホーム等入居者家賃助成

障害者総合支援法のグループホーム、千葉県生活ホームに入居している方に対し、一定の要件を満たした場合、家賃の一部を助成します。

(3) 重度身体障害者住宅改善費助成

重度の身体障害のある人が住宅を利用しやすいように改善する場合、市から助成金が受けられます。

(4) 緊急通報装置

一人暮らしの重度の身体障害のある人に、自宅での緊急時の病気、災害等に迅速かつ適正に対応するために、緊急通報装置を設置します。

(5) 寝具乾燥・消毒サービス

ねたきりの身体障害のある人に機械による寝具の乾燥・消毒と丸洗いサービスを行っています。

(6) 訪問理美容サービス

外出することが困難な重度の身体障害のある人が、自宅で理美容を受けられるように訪問費用を助成します。

(7) 福祉タクシー

重度の心身障害のある人が市と協定を締結したタクシーを利用した場合に、乗車料金の一部を助成します。

(8) 介護用品の給付

身体障害者手帳1・2級の人で介護用品を利用している在宅の人に介護用品引換券をお渡ししています。

(9) 難病療養者見舞金

千葉県が発行する医療費助成の各種受給者証等をお持ちの方にお見舞金を支給しています。

第7章 サービス見込量の総括表

本市における障害福祉サービスの見込量は次のとおりです。

福祉サービス		27年度	28年度	29年度	単位
訪問系	居宅介護	117	130	143	実人/月
		1,722	1,907	2,092	時間/月
	重度訪問介護	1	1	1	実人/月
		4	4	4	時間/月
	同行援護	30	34	38	実人/月
		383	430	477	時間/月
行動援護	27	30	33	実人/月	
	299	310	321	時間/月	
重度障害者等包括支援	0	0	0	実人/月	
	0	0	0	時間/月	
日中活動系	生活介護	165	171	177	実人/月
		2,964	3,041	3,118	延人日/月
	自立訓練(機能訓練)	3	4	5	実人/月
	自立訓練(生活訓練)	3	3	3	実人/月
	就労移行支援	37	44	50	実人/月
		740	880	1,000	延人日/月
	就労継続支援 A 型(雇用型)	2	3	4	実人/月
		40	60	80	延人日/月
	就労継続支援 B 型(非雇用型)	61	69	77	実人/月
		985	1,104	1,223	延人日/月
	療養介護	10	11	11	実人/月
		310	341	341	延人日/月
短期入所	36	39	42	実人/月	
	371	389	407	延人日/月	
居住系	施設入所支援	65	63	61	実人/月
	共同生活援助(グループホーム)	43	46	48	実人/月
相談支援	計画相談支援	46	46	46	実人/月
	地域移行支援・地域定着支援	1	1	1	実人/月

本市における障害児支援の見込量は次のとおりです。

	27年度	28年度	29年度	単位
障害児相談支援	28	29	30	実人／月
児童発達支援	62	65	68	実人／月
	236	236	236	延人日／月
医療型児童発達支援	3	3	3	実人／月
	5	5	5	延人日／月
放課後等デイサービス	92	106	120	実人／月
	649	702	755	延人日／月
保育所等訪問支援サービス	1	1	1	実人／月
	2	2	2	延人日／月

本市における地域生活支援事業の見込量は次のとおりです。

		27年度	28年度	29年度	単位
(1)相談支援事業					
	障害者相談支援事業所	2	2	2	箇所数
(2)意思疎通支援事業					
	手話通訳者設置事業	1	1	1	設置実人数
	手話通訳者派遣事業	18	18	19	利用実人数
(3)日常生活用具給付等事業					
	介護訓練・支援用具	3	3	3	件
	自立生活支援用具	21	22	23	件
	在宅療養等支援用具	8	8	8	件
	情報・意思疎通支援用具	45	51	57	件
	排泄管理支援用具	1,542	1,609	1,676	件
	居宅生活動作補助道具	5	5	5	件
(4)移動支援事業		110	112	115	利用実人数
		7,486	7,500	7,550	利用延時間数
(5)地域活動支援センター	本市(Ⅲ型)	3	3	3	箇所数
		67	69	71	利用実人数
	他市(Ⅲ型)	3	3	3	箇所数
		5	6	7	利用実人数
	他市(Ⅰ型)	1	1	1	箇所数
		26	27	28	プログラム参加者数
650		660	670	相談者業務人数	

第8章 サービス見込量確保のための方策

本市においては、直営の就労継続支援B型事業を行っている障害者就労支援センターネットワークと、地域活動支援センターⅢ型事業を行う2か所の四街道市福祉作業所があります。また、直営で児童発達支援事業を行っている児童デイサービスセンターくれよんがあります。

自立支援協議会においては、専門部会を設置し、生活、就労、療育・教育に関する様々な課題について話し合いを進めており、利用者が、地域で安心して暮らしていくための支援体制ができ上がりつつあります。

1 訪問系サービス

●現在、市内には、居宅介護・重度訪問介護の指定を受けた事業所は9か所、行動援護の指定を受けた事業所は1か所、同行援護の指定を受けた事業所は8か所あります。市外の事業所や介護保険事業所と共通した社会資源の活用が可能ではありますが、全国的には従事する介護職が量的に不足していることが指摘されています。今後はさらに利用が拡大していくことが想定されることから、事業者の状況把握に努め、介護保険事業者などに対しても呼びかけや情報提供を行うなど、見込量の確保に努めていきます。

●サービスの量的な確保だけでなく、質の向上を図るため、必要により、人材育成のための支援を行っていきます。

2 日中活動系サービス

●現在、市内には、生活介護で指定を受けた事業所が2か所、就労移行支援で指定を受けた事業所が1か所、就労継続支援B型で指定を受けている事業所が3か所、短期入所で指定を受けた事業所が3か所、療養介護で指定を受けた事業所が1か所あります。

今後はさらに利用が拡大されることが想定されるため、事業者の状況把握に努め、見込量確保に努めます。

●就労系事業所においては、安定的な仕事量の確保が不可欠であることから、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（平成二十四年法律第五十号）に基づいて、官公需の情報提供や調整を行い、活発化することにより、利用者の就労促進に努めます。

3 居住系サービス

- 現在、市内には、施設入所支援で指定を受けた事業所が2か所、共同生活援助で指定を受けた事業所が2か所あります。福祉施設から地域生活への移行を踏まえると共同生活援助は、今後利用が拡大していくことが想定されることから、事業者の状況把握に努め、見込量の確保に努めます。

4 障害児支援

- 障害のある子どもの相談支援体制については、増加傾向にある相談件数に対応できるよう相談支援体制を整備していきます。
- 現在、市内には、児童発達支援で指定を受けた事業所が3か所、放課後等デイサービスで指定を受けている事業所が4か所あります。
障害児支援の希望者は増加の傾向にあるため、事業者の状況把握に努め、見込量確保に努めます。

5 地域生活支援事業

- 相談支援体制については、増加傾向にある相談件数に対応できるよう相談支援体制を整備していきます。また、サービス事業者などの関係者による個別ケア会議を行うことで総合的な支援を行っていきます。
- 自立支援協議会については、行政はもとより教育、就労関係機関などや障害者団体（障害当事者）の参加により展開しています。生活、就労、療育・教育、防災の4つの部会において、様々な検討を行っております。今後は、障害者権利条約を踏まえ、地域における権利擁護などのためのネットワークの役割についても検討していきます。
- 意思疎通支援事業、移動支援事業、地域活動支援センターなどマンパワーが必要な事業については、県などで行われる研修などの情報提供と積極的な参加を促し、マンパワー確保のための環境を整えていきます。

第9章 計画の推進

1 進捗状況の管理と評価

計画策定後は、各年度において、サービスの見込量のほか、地域生活への移行が進んでいるかなどの達成状況を点検、評価し、この結果に基づいて所要の対策を実施していく必要があります。

本市では、計画の進行を管理するため、計画の策定、改定を行う時に各施策の進捗状況を調査します。

2 関係機関との連携

障害のある人が、地域の中で心身ともに健康に、自立して生活していくためには、地域の中で適切なサービスを提供する体制を構築することが必要です。

そこで、四街道市地域福祉計画の理念のもと、自立支援協議会を中心として、障害福祉サービス事業所、医療機関、ボランティア、NPO、社会福祉協議会、民生委員などの関係機関の、それぞれの役割分担を明確にしなが、連携の強化を図っていきます。

3 県および障害保健福祉圏域との調整・協力

千葉県においては、市町村の枠を超えた各種のサービスの面的・計画的な整備と重層的なネットワークを構築する単位として、健康福祉センターの所管区域を基準とした16の障害保健福祉圏域が定められました。

本市は、印旛健康福祉センターの所管区域に含まれます。印旛健康福祉センターは、本市をはじめ、成田市・佐倉市・八街市・印西市・白井市・富里市・酒々井町・栄町の9市町を管轄しており、地域活動支援センターI型や中核地域生活支援センター、就労・生活支援センターの利用もこの圏域で行われています。今後も広域的な事業などの推進にあたっては、それぞれの市町村が調整・協力し合い、より効果的・効率的な事業の運営に努めます。

資料 1 計画策定経過

■保健福祉審議会 本会

開催日	区分	主な審議内容
平成 26 年 5 月 12 日	第 1 回	<ul style="list-style-type: none">・ 諮問（障害福祉計画の策定について）・ 計画の概要及び策定スケジュールについて・ 障害者部会設置について
平成 27 年 2 月 16 日	第 2 回	<ul style="list-style-type: none">・ 答申（第 4 期障害福祉計画の策定について）

■保健福祉審議会 障害者部会

開催日	区分	主な審議内容
平成 26 年 8 月 26 日	第 1 回	<ul style="list-style-type: none">・ 現行計画の進捗状況について・ 第 4 期計画に係る各団体等との意見交換会について
平成 26 年 11 月 26 日	第 2 回	<ul style="list-style-type: none">・ 第 4 期障害福祉計画（素案）について
平成 27 年 2 月 9 日	第 3 回	<ul style="list-style-type: none">・ 第 4 期障害福祉計画（案）について

■自立支援協議会

開催日	区分	主な審議内容
平成 26 年 8 月 26 日	第 1 回	<ul style="list-style-type: none">・ 現行計画の進捗状況について・ 第 4 期計画に係る各団体等との意見交換会について
平成 27 年 1 月 27 日	第 2 回	<ul style="list-style-type: none">・ 第 4 期障害福祉計画（案）について

■意見交換会

開催日	対 象	主な内容
平成 26 年 8 月 31 日	・ 障害者団体	・ 日ごろの生活で困っていること・問題点
平成 26 年 9 月 1 日	・ 障害者団体	・ 日ごろの生活で困っていること・問題点
平成 26 年 9 月 2 日	・ 障害者団体	・ 日ごろの生活で困っていること・問題点
	・ サービス提供事業者	・ 障害福祉サービスについて

■意見提出手続（パブリックコメント）

意見提出期間	内容
平成 26 年 12 月 22 日～ 平成 27 年 1 月 20 日	・ 第 4 期障害福祉計画（案）について

資料 2 計画策定体制

1. 四街道市保健福祉審議会条例

(設置)

第 1 条 市は、社会福祉施策の総合的かつ計画的運営を図り、もって住民福祉の向上を図るため、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定により、四街道市保健福祉審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 保健、福祉及び医療施策に係る長期計画等に関すること。
- (2) 保健、福祉及び医療施策の進展、動向及び諸制度に関すること。
- (3) その他保健、福祉及び医療施策に係る重要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、次の各号に掲げる者のうちから、市長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 学識経験を有する者 3 人以内
- (2) 保健関係者 2 人以内
- (3) 福祉関係者 4 人以内
- (4) 医療関係者 3 人以内
- (5) 市民代表 3 人以内

2 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

3 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、委員のうちから会長が指名する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(臨時委員)

第 5 条 審議会に、特別な事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員を置くことができる。

2 臨時委員は、調査審議事項を明示して学識経験がある者のうちから、市長が委嘱する。

3 臨時委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任さ

れるものとする。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会は、委員（特別な調査審議事項に係る臨時委員を含む。）の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属させる委員及び臨時委員は、会長が指名する。

3 部会に、その部会に所属する委員の互選による部会長を置く。

4 部会長に事故あるとき、又は欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

5 第4条第3項及び第6条の規定は、部会に準用する。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、規則で定める機関において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

2. 委員名簿

■保健福祉審議会

選出区分	氏名	備考
学識経験	澁谷 哲	
	大淵 義明	
	江口 勝善	
保健関係	金子 恵子	
	有川 良子	
福祉関係	岡田 はる美	
	秋山 峰子	
	原 多喜夫	副会長
	中村 修治	
医療関係	柴 忠明	会長
	中島 二郎	
	島 万里子	
市民代表	栗原 直也	
	伊佐 勉	
	飛田 周彬	

順不同・敬称略

■障害者部会

選出区分	氏名	備考
学識経験	大淵 義明	部会長
医療関係	柴 忠明	
	中島 二郎	
保健関係	金子 恵子	
市民代表	伊佐 勉	
臨時委員	川崎 鉄男	
	穴澤 悦子	副部会長

順不同・敬称略

資料3 用語の解説

ノーマライゼーション

障害のある人もない人も、社会の一員として、互いに尊重し合い、支え合いながら、地域の中でともに生活することが正常（ノーマル）な社会の在り方であるという考え方のことです。

インクルージョン

すべての人が社会の構成員として包み、支え合い、共生する、共に生きる社会を目指すという考え方であり、障害のある人が普通の場所で普通の生活をするということです。

バリアフリー

誰もが自立した生活を送れるようにするために、障害のある人や高齢者の生活や活動を差別したり、妨害したりするものを取り除こうという概念のことです。バリアには、都市環境・建築などの物理的なバリア、人間の意識や態度、行動などの背景にある心理的なバリア、社会的な制度のバリア、コミュニケーションのバリアなどがあります。

サービス等利用計画

障害福祉サービスの利用を希望される方が、総合的な援助方針やご本人の生活などに関する課題を踏まえ、最も適切なサービスなどについて検討し、「指定特定相談支援事業者」、「指定障害児相談支援事業者」の相談支援専門員が作成するものです。利用者本人、家族、支援者等が作成することもできます(セルフプラン)。

指定特定相談支援事業者

障害のある人、家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供、助言、専門機関等との連絡調整を行う基本相談と、障害のある人等が、障害福祉サービスを利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う、計画相談支援を行う事業者です。

指定障害児相談支援事業者

障害のある子どもが障害児通所支援(児童発達支援、放課後等デイサービス等)を利用しようとする場合、障害児支援利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う事業者です。

相談支援専門員

障害のある人が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービスなどの利用計画の作成や地域生活への移行・定着に向けた支援、住宅入居等支援事業や成年後見制度利用支援事業に関する支援など、障害のある人の全般的な相談支援を行います。

自立支援協議会

障害のある人の地域における生活を支援していくためには、関係機関や関係団体、障害福祉サービス事業者や医療・教育・雇用などの関係者が、地域の課題を共有し、地域の支援体制の整備について協議を行うことが重要です。自立支援協議会はこの役目を担っています。

自立支援協議会を設置した都道府県及び市町村は、障害福祉計画を定め、又は変更しようとする場合は、あらかじめ、自立支援協議会の意見を聴くよう努めなければならないとされています。

成年後見制度

知的障害、精神障害、認知症などにより判断能力が不十分な成年者の、財産や権利を保護するための制度です。

地域活動支援センター（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型）

創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進その他障害のある人などが自立した日常生活及び社会生活を営むために必要な支援を行うセンターです。「基礎的事業」として、創作的活動、生産活動、社会との交流の促進などの事業を実施します。また、それらの事業に加え、事業の機能を強化するために下記の事業を実施する場合、その内容に応じⅠ型からⅢ型までの類型が設定されています。

Ⅰ型：専門職員（精神保健福祉士など）を配置し、医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整、地域住民ボランティア育成、障害に対する理解促進を図るための普及啓発などの事業と、併せて相談支援事業を実施します。

Ⅱ型：地域において雇用・就労が困難な在宅障害者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴など、自立と生きがいを高めるための事業を実施します。

Ⅲ型：創作的活動、生産活動、社会との交流促進などの事業を実施します。

補装具

障害のある人などの身体機能を補完し、又は代替し、かつ長期間にわたり継続して使用される用具のことです。具体的には、車いす、盲人安全杖、義手、義足、下肢装具、補聴器などです。

四街道市第4期障害福祉計画

発行日 平成27年3月

発行 四街道市役所 福祉サービス部 障害者支援課
四街道市鹿渡無番地

電話 043-421-6122

F A X 043-421-2676